

## 土肥原洋先生のご退職にあたって

経済学部長 権 丈 英 子

2022年3月、土肥原洋先生はご定年で退職されました。土肥原先生は、2009年4月に亜細亜大学経済学部にて教授として着任されました。土肥原先生には、この間に、経済学部のために、また亜細亜大学のために、多大なご尽力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。ここでは、私の存じ上げている範囲になりますが、土肥原先生のご功績の一端をご紹介します。

土肥原先生は、東京大学経済学部をご卒業後、経済企画庁（現内閣府）にて、内閣府大臣官房総括審議官等の要職を歴任されました。在職中に、東京大学先端科学技術研究センターや名古屋大学大学院等において研究教育にもあたられました。

本学経済学部では、「日本経済の現状と展望」「日本経済論」「企業論」等の講義科目や「専門演習」をご担当いただきました。また、大学院経済学研究科においても、「日本経済研究」「日本経済論演習」「日本経済特殊研究」をご担当いただきました。いずれの科目も学生の評判が高く、毎年多くの学生が受講していました。

本学経済学部は、学生が経済学の理論を体系的に学ぶとともに、個別産業や企業について見識を深め、現実経済の動きを直接感じることができることを重視しており、外部講師を招聘した授業を複数提供しているところにも特色があります。土肥原先生にご担当いただいた「日本経済の現状と展望」は、長年経済学部の看板科目として位置付けられており、土肥原先生のこれまでのご経験により培われた幅広いご人脈と経済への優れたご知見を生かし、日本経済をリードする著名な方々を講師としてお招きいただきました。また、学生に、より実践的な就職活動のノウハウも提供する、東京経営者協会による提供講座である「企業論Ⅰ」、そして、本学と西武信用金庫との包括的連携協力協定の中で生まれた「経済学特講Ⅱ（西武信用金庫寄付講座）」等もご担当いただきました。これらの科目における学びは、学生が理論と実践を結び付けて理解することに役立ち、経済への興味関心を大いに高めるとともに、就職活動にも大変に有益であったようです。

土肥原先生は、2012年10月から2015年9月まではキャリア委員長をされました。本学は学生の就職活動への丁寧なサポート体制において外部からも高い評価を得ていますが、土肥原先生はそうしたキャリア支援の体制づくりにおいても、ご尽力くださいました。

学部内では、2011年4月から2016年3月まで、経済学部の研究組織である、経済社会研究所長を務めていただきました。東日本大震災の後に、前任の菊池威先生から引き継いでいただきました。その頃、私は、経済社会研究所の担当をしており、*Annals of Economic and Social Research*（通称『アナルズ』）刊行や研究報告会の開催などでアドバイスをいただきました。2011年号では、先生方から頂戴する寄稿のテーマとして新たにFD・授業改善の試みを加えることや、従来年度末に発行していたものを、時期を変えることにより、充実した内容と着実な刊行へとつなげるご提案をい

いただいたことなどを思い出します。

土肥原先生は、2017年4月から2021年3月までは、大学院経済学研究科委員長をされました。経済学研究科にはアジアからの留学生と税理士志望の学生という2つの異なるタイプの学生が主に在籍しています。土肥原先生のご担当科目は、両方のタイプの学生が受講しており、先生は学生の状況などをよくご存じでした。土肥原先生の研究科委員長在任中に、全学レベルで今後の大学院の在り方を検討する2つの委員会が開催されました。1つ目の委員会では、大学院の存続にも踏み込んだ議論が交わされました。その後2019年度の大学基準協会の大学評価（認証評価）を経て、そこで改善課題とされた、大学院の定員管理を徹底することに取り組むことになりました。私は2つ目の大学院検討委員会の委員長を務めました。土肥原先生からは、経済学研究科について、法学研究科とは別に税理士養成に取り組む意義や学生の状況、また今後の方策などが詳しく説明されました。

そのほか、土肥原先生には、経済学部のカリキュラム委員長、そして採用人事や昇格人事における資格審査委員会の委員長という、極めて重要な役職をお務めいただきました。それぞれに難しい課題もあったところですが、土肥原先生の穏やかでいて、的確かつバランスの取れた采配により、うまくまとまった面も多くございました。

土肥原先生は、国民経済計算から見た日本経済や家計の動向などのご研究に取り組まれてこられました。そのなかで、亜細亜大学経済学紀要に掲載された「基本法から見た経済政策の特徴」は、第2次世界大戦後出された40余りの基本法について、制定・改正のタイミングの共通性、政策的共通性を概観することで、背景にある経済政策の考え方の変遷を見ようとするもので、政策の全体的な流れを理解する興味深い視座を提供し有益なものだと思います。また、個人的には、土肥原先生が前職の家計経済研究所の専務理事をされていた頃、日本における家計パネルデータの先駆けである、同研究所の「消費生活に関するパネル調査」を利用させていただき、欧州4か国と日本の比較研究を進めることができ、お世話になったことがありました。

2017年5月に日本経済政策学会第74回全国大会を亜細亜大学において開催した折には、土肥原先生が植村利男先生から大会運営委員長を引き継がれ、経済学部のメンバーと共に大会を成功に導きました。「経済環境の変化と経済政策～アジア経済連携と日本の関与～」というテーマを掲げ、竣工したばかりの5号館を主たる会場として、2日間で約300名の参加を得て、参加者から大変な好評を得ることができました。

土肥原先生の本学におけるご活躍を振り返り、先生に様々な教えていただいたことを思い出します。改めまして、土肥原先生に心より感謝申し上げ、先生の今後益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

土肥原先生、長い間、本当にありがとうございました。